

令和2年6月25日

チーム監督各位

葛飾区少年軟式野球連盟立石地区

葛飾教育リーグ会

新型コロナウイルス感染症防止対応策

葛飾教育リーグ会を開催するにあたり、下記内容を遵守してください。

※JSBB 感染予防対策ガイドラインを基準に作成しております。

1. 試合当日にグラウンドへ来られる際、全員が自宅にて必ず検温を実施すること
2. 試合当日における以下の状態の者は参加を認めない
 - ・平熱を超える発熱（37度5分以上）
 - ・咳（せき）、喉（のど）の痛みなどの風邪症状および味覚嗅覚を感じないがある場合
 - ・だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触者の有無
 - ・身近な人に感染が疑われる人と接触した場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
3. 選手、チーム関係者、保護者、審判員はグラウンドに入る際、必ずマスクを着用すること（試合時以外で人との距離を確保できない場合は必ずマスクを着用すること）
4. ベンチ内でもなるべくマスクを着用することを推奨。ただし熱中症予防に配慮すること
5. 試合開始時及び終了時ホーム上で整列は行わず、ベンチ前に整列すること
6. ベンチ内で大きな声での会話、声援等は極力控えること
7. 全選手がベンチ内に留まらず、ベンチ外も利用し、選手同士の距離を確保すること（通常ベンチ外は認められないが、特例として認めることとする）
8. ベンチ内及び本部に設置の石鹸もしくはアルコールにて手指の消毒をこまめに行うこと
9. 球審はマスク着用することが望ましいがフェイスシールドの着用を推奨する
10. 出場選手（全守備、打者、コーチャー）及び塁審のマスク着用を義務付けは行わない。
11. 球審、本部からの諸注意をチームに伝える場合は、各々マスクを着用して行うこと
12. 試合中マウンドに集合する際は、グラブで口元を覆い会話すること
13. 肌が触れ合うハイタッチ、円陣等は行わないこと
14. グラウンド敷地内での唾や痰を吐く行為は絶対に行わないこと
15. ジャグタンクで飲むコップやタオルは共用をしないこと
16. ドリンク等の飲み残しは容器ごと持ち帰ること

17. 応援者については、観客席が「密」にならないように、一定の距離を保って観戦するようにチームごとで応援者に注意喚起を行うこと
18. 大会期間中緊急事態宣言等が発出された場合は大会を中断もしくは中止する
19. 大会期間中出席者から新型コロナウイルス感染症陽性者が出た場合、大会を中止する
20. 選手、チーム関係者、保護者に新型コロナウイルス感染が確認されたときは、速やかに青柳地区長へ報告し活動を自粛すること

【熱中症対策について】日々の活動、試合開催時共通の注意事項

感染症対策と共に熱中症対策も徹底し、活動計画を立てましょう。

気温や湿度の上昇に伴って熱中症になりやすくなります。又、新型コロナウイルス感染症の影響からスポーツ活動が自粛され、基礎体力が低下していることが予想されます。

この状況下において急激な運動負荷は、怪我や故障のリスクが高まるだけでなく、熱中症のリスクも高まります。

(公財)日本スポーツ協会の「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック(2019)」によると、24～28℃で注意、それ以上になると警戒が必要とされていますが、活動再開後しばらくは気温が低い状況での活動においても特段の警戒が必要です。

また、夏場のマスク着用での生活は多くの人々が体験したことのない状況であると思われるので、選手や指導者のみならず、審判員や観戦者等の全ての人において熱中症への一層の警戒が必要です。

【指導者・コーチが特に注意する点】

- ・屋外で2m以上の距離が確保できる場合は、熱中症リスクを考慮し、マスクを外させる。参加者がマスクの着用を希望した場合は、呼気が激しくなるような運動を控えさせる。
- ・各自で水筒等を準備するよう指導し、休息や水分補給の時間を積極的に設ける。
- ・子ども(特に低身長者)は輻射熱(地面からの照り返しの熱)の影響をより受けやすい事を考慮する。
- ・成長期であることを考慮し、個人のペースに合わせた活動を考える。
- ・障害予防の観点からも活動の強度や時間を段階的に高め、筋力、持久力の回復に努めさせる。感染後、活動に復帰した者については、より身体機能の低下が予想されるため、特に活動の強度や時間に注意する。
- ・保護者の活動参加についても、他人との距離を取り、感染予防対策を徹底するようお願いする。

以上